

後期日程

令和2年度入学試験問題（後期日程）

小論文

教育学部
学校教育課程
幼小連携教育コース

— 解答上の注意事項 —

- 1 「解答始め」の合図があるまで問題を見てはならない。
- 2 問題冊子のほかに解答紙1枚と下書き用紙1枚がある。
- 3 解答は横書きとする。
- 4 解答紙を提出すること。
- 5 問題冊子と下書き用紙は持ち帰ること。

【問】 以下の文章は、教師が子どもを理解するために個人情報を知ることが重要であるという主張を述べたものです。この文章を参考にして、教育と個人情報の関係に関するあなたの考えを、800字以内で述べなさい。

子どもは、一人で生きているのではありません。ご家族とともに生活をしてきており、また学校に上がるまでに、すでにいろいろな療育を受けているのがふつうです。お子さんたちとひとりに暮らしてきたご家族の様子や、これまでの育児の様子や、生活のなかでわかっている情報を知ることが、重要であることはいうまでもありません。

ところが最近、この個人の情報を教師が知ることが、県や市の教育委員会が禁止する例が少なくありません。お父さんの収入とか職業とか、家族の構成メンバーなど尋ねることは、生徒の差別につながるという論のようです。家庭訪問もあまりおこなわれなくなってしまいました。教師が家庭の状況を知ることに対する抗議があったのかもしれませんが、このような教育委員会の方針は、木を見て森を見ずといった近視眼的なものといわざるをえません。とくに自閉症のような、教育が困難なお子さんに取り組むときに、お子さんを取り巻く状況の情報は絶対に必要です。発達障害に限らず情緒的なこじれでも、対応がむずかしい問題を抱えるお子さんほど、まわりの情報を集めることが要求されます。教師の側も「教師は授業で勝負する」と、ご自分の生の感じ方を大切にするあまり、前年度の申し送りすら、きちんと目をとおさない人がいるのも困ったものです。

つぎのような実例があります。

(中略)

もう一人紹介します。多動児です。支援クラスと通常クラスを行き来しておりますが、前の席の子を鉛筆でぐさっと刺すなど衝動的なトラブルが多く、また、着席して何かに取り組める時間はせいぜい一五分程度で、学校では対応に苦慮しておりました。ご両親は離婚をされており、子どもの暴力的なトラブルがつづくため、お母さんに学校にきてもらうことがたびたび生じたのですが、お母さんの彼への態度がなにかぎごちなく、とくにトラブルに対してもしかる様子がないことが、先生がたには非常に奇妙に映りました。たまたま教務の先生が私たちの症例検討会のメンバーで、紹介を受けてこの母子が相談にこられ、わかったのはつぎのような事情です。姉とこの本人が生まれたころから父親は事業に失敗し、家庭全体がきびしい緊張のなかに暮らすようになりました。お父さんは遅くまで仕事を持ち込み、仕事をしながらいらしているときに、赤ちゃんのころからかんの強い子であった彼が夜泣きをしたりすると、妻や子に激しい暴力を振るうことがしばしばありました。父親の暴力に耐えられなくなったお母さんは家出をしたのですが、そのときに彼をおいて姉だけを連れていったのです。むずかりやすい彼を連れてはとても無事に逃げられないと思い、彼をおいていったのだといいます。そのまま両親は別居し、母親が彼も引きとって離婚したのですが、もともと多動児であった彼の行動はますますひどくなったのです。

知的にも若干のハンディキャップがあり、このときの状況を彼が覚えていると思えませんが、その後のお母さんと彼とのあいだには、当然とはいえ、しっくりしないことが多くなりました。何よりも母親は彼に対してすまないという気持ちを強くもっており、彼のわがままにも、荒れたときにもしかりにく

い状況となりました。

この情報を得てから、担任の先生の彼に対する気持ちが非常に変わりました。どうしようもない問題児とのみ考えていた彼が、幼くしてとてもつらい体験を重ねてきた子と映るようになったのです。そしてそのような目で彼を見直してみると、彼の多動傾向は変わらないものの、衝動的な乱暴を働く場面がけっして偶然ではないこともわかってきました。

ほかの子がほめられたり先生を独占したりして、彼が置き去りにされたと感じたとき、まったく無関係な周囲の子に、彼の衝動的な暴力が出るが多かったのです。薬の助けもあったのですが、その後、問題行動はいちじるしく軽減するようになりました。

こういうケースは例外かもしれません。しかし、家庭の状況がどんどん複雑になってきた現在、かつておこなわれていた家庭訪問を復活させる必要性は増してきているのではないのでしょうか。

このような複雑なことは教育相談などのプロにまかせて、授業に専念すればよいというのでは、あまりに子どもという存在を断片的にとらえてはいないのでしょうか。

(杉山登志郎『基礎講座 自閉症児への教育』日本評論社, 2011年, 28-32頁。)